

## 歯周病治療について

### 1) 歯周病治療の流れ

歯周病は無症状で進行して症状が出てきた時には進行していることがほとんどです。症状が起きた時には歯を支える骨が吸収して歯周ポケットが深くなっています。

当院では歯のクリーニングを含め歯石を取る場合には必ず、**歯周組織精密検査**を行います。その結果、歯周ポケットが正常または比較的浅い場合はスケーリング（歯石除去）やルートプレーニングのみで終わりますが、歯周ポケットが深い場合は、根面から歯石を取った後に歯肉や歯槽骨の**切除療法**や骨の**再生療法**を行わないと健全な歯周組織で維持できなくなります。（**自費治療**の場合は歯石を取ると同時に再生療法をする場合があります。保険診療の場合は決められた流れに沿ってでないといけないので）それらの手術は高度な技術を必要とするため経験と技術が必要となります。

### 駒沢パークサイド歯科口腔外科の歯周治療におけるコンセプト

徹底的に歯石を除去し、汚染された根面をきれいにすることで、歯肉の炎症や出血は治り歯周ポケットも浅くなります。

しかしながら、進行した歯周病で骨面に凹凸ができている場合は、時間が経つにつれ再びポケットは深くなる傾向にあります。なぜなら、歯肉は半流動体の性質を持ち骨形態に追随せずに平坦になろうとするからです。

つまり、除石により歯肉の炎症が軽減され一度は骨の形態に従い歯肉は退縮しますが、時間と共に再び周囲の歯肉の高さに影響され、下がった歯肉が元に戻りながら平坦化することでポケットは再発するのです。

では、ポケットの再発を防ぐにはどうしたら良いのでしょうか？

結論は歯周病により吸収された歯槽骨の形態を生理的な骨形態に改善することです。つまり、歯槽骨の頂上を周囲の骨レベルと同様に骨外科処置を行い平坦化することで再発は防げます。

その治療法は**切除療法**と**歯周組織再生療法**に大別されます。

## 歯周病の治療法

### 歯周ポケットの深さ（デプス）を、3mm 以内に収める

歯周病の治療には、医院での治療に加え、ご自宅でのセルフケアも大事です。そのため、「歯周ポケットの深さ（デプス）を、3mm

以内に収める」ことをコンセプトに置いています。

なぜ、3mmなのか。なぜならその深さが、歯ブラシの毛先が到達できる限界だからです。しかも歯周病菌は「嫌気性菌」なので、空気の触れにくい深い場所ほど好みます。

当院では、セルフケアの可能な3mm以内の歯周ポケットは、健全値とみなします。しかし歯周ポケットが4mmを超えると、歯周病の病態は一気に進むので注意が必要です。

### 支持骨の再建で歯周病の再発防止

歯周病は、あごの骨の中に埋まっている歯槽骨（しそうこつ）を支える「支持骨」がダメージを受けることによって発生します。支持骨がダメージを受けると、歯槽骨が陥没し、歯槽骨の並びがガタガタになってしまいます。

その状態のまま治療やセルフケアを行っても、そこからポケットが再発します。

歯槽骨の頂上を平坦化しないと、歯周病は必ず再発するのです。

歯槽骨の頂上を周囲の骨レベルと同様に平坦化するには、「骨外科処置」による歯周外科治療を行ないます。

治療法としては、「切除療法」と「歯周組織再生療法」の大きく二つがあり、もしくはそのコンビネーションで行なわれます。

### 切除療法について

歯周病は、細菌により歯槽骨(歯を支えている骨)が吸収され、最後には歯が自然に抜け落ちてしまいます。骨が吸収されたところには深い歯周ポケットが形成され、その中で歯周病菌が増殖して口全体に感染します。そこで、歯周病の治療は、歯周病菌の巣になっている歯周ポケットの除去を目的とします。

歯周ポケットが存在しています。X線写真で歯槽骨の吸収が認められます。

歯周ポケットの除去をして歯周病を改善しても、歯を支えている歯槽骨の頂上を平らにしなければ、再び歯周ポケットが形成され、さらに歯周病は悪化します。

そこで、骨頂を平らにするために外科的に骨頂を削って骨の形態を改善することにより歯周病の再発を防ぎます。この手法は確実に予想した治療結果になる予知性の高い治療法です。

左の図の黄色の部分の骨を外科的に削ることにより右の図のように骨頂を平らにして、歯周ポケットの除去を行います。

しかし、この治療法を行うことで歯を支えている骨の高さが減少し、それにともない歯肉も下がります。特に見た目にかかわる前歯や、5mm を超えるような深い歯周ポケットの場合は歯が長くなって審美性を失い、また歯を支える歯槽骨の高さが減少することにより歯が生理的な動揺の範囲を超え、歯を削って隣の歯と 修復物により連結して個々の歯にかかる力を分散する必要があります。

また、歯肉が退縮して根面が露出し、知覚過敏を引き起こすことが生活歯の場合あります。

知覚過敏が改善されない場合、神経をとらなくてはならない場合もあります。

5mm 以上のポケットを有する健全歯や審美領域の歯にはこの手法は通常適しません。主に 5mm 以内のポケットのある大きな修復物が装着されている失活歯や臼歯部などに行います。

3) 切除療法

4) 歯周再生療法

5) 軟組織の問題について

## 歯周治療のゴールについて

歯周病に罹患した病的な歯肉の状態を健全な状態に改善するには、歯周ポケットを浅くしなければなりません。なぜなら、歯ブラシの届く限界は3mm以内だからです。これは、過去の文献で報告されています。理想的な歯周治療のゴールはポケットを3mm以内に収めることです。

## 2) 当院の治療コンセプト

歯の周囲の歯槽骨は吸収されるのです。歯槽骨の吸収は、生体の防御反応からおこります。

歯槽骨の吸収に伴い歯肉も退縮し、歯が長くなり動揺するようになります。

30代女性の初診時の口腔内写真とデンタル X-ray 写真.

歯肉が腫れているだけのように見えますが、X-ray 写真では垂直的にかなりの歯槽骨が失われております。また6mm以上の歯周ポケ

ットも存在しています。

ポケットが深くなると、更に清掃出来ない状況がポケット内に発生します。そして、ポケット内で繁殖した歯周病菌が他の歯に感染して同じことが口腔内全体に起こるのです。